



みんなで 未来の都市をつくる 手がかり

HITACHI

Tomorrow. Together
KDDI

目次

- 001 空間を超えて感動をともにする
- 002 自分の学びを見える化する
- 003 健康管理を自然に自分事化する
- 004 細部に宿る知を見える化する
- 005 自分も地球もヒーリング
- 006 分身で叶える
- 007 どこでもネイティブになれる
- 008 過去を手放してみる
- 009 旅以上、定住未満で暮らす
- 010 AI パートナーとともにこだわりをつくる
- 011 「好き」や「やる気」で稼ぐ、学ぶ
- 012 その場に行くことによって活力を獲得する
- 013 鳥の目を持つ
- 014 参加の入口を広く用意する

みんなで未来の都市をつくる手がかりとは？

いろいろな立場の人と未来の都市について対話するためのコミュニケーションツール。^{※1}

Society 5.0^{※2} が実現した未来の都市において、デジタルの力で人の可能性をひろげ、多くの人が生き生きと社会参加するための手がかりを提供するものです。

私たち日立・KDDI は、この手がかりをきっかけに市民の皆さまとともに、未来の都市について考えていきたいと思えます。

※1 1970年代に建築家クリストファー・アレグザンダーが提唱した知識記述の手法である『パターン・ランゲージ』に則って作成

※2 内閣府が提唱する、サイバー空間とフィジカル空間を融合させた、人中心の持続可能な未来社会の姿です

手がかりの使い方



未来に目を向けるきっかけにしよう

この手がかりには、日立・KDDIが考える『デジタルの力で人の可能性がひろがり、様々な人が生き生きと社会参加する暮らしのシーン』が複数描かれています。これらを読み進めることが、未来について考えるきっかけになります。



地域の課題を解決するヒントを見つけよう

手がかりに書かれた「状況」や「問題」、「解決のためのアプローチ」をもとに、いまの自分や地域に当てはまるものを見つけることで、課題を解決して未来の都市をつくるコツやヒントがわかります。



わたしたちにできる一歩を踏み出そう

コツやヒントが分かったら、実際に自分にできる行動は何かを考えてみましょう。そして、この手がかりをコミュニケーションツールとして、まわりの人と一緒に自分たちにできる最初の一歩を踏み出してみましょう。

カードの見方（表）

999

1 手がかり名



2 参加によって実現する価値

3 手がかりが役立つ状況

そのとき

4 状況の中で発生する問題

そこで

5 問題解決のアプローチ

- ① 手がかり名
- ② この手がかりが実装され、さまざまな人が生き生きと社会に参加することで実現する価値
- ③ 未来の社会において、この手がかりが役立つ状況
- ④ その状況において起こってしまう問題の具体例や発生理由
- ⑤ デジタルの力を活用して、その問題を解決するためのアプローチ例

カードの見方（裏）

参加が生む
価値の広がり と 課題

+

6

-

関連する取り組み

7

関連する手がかり

8

- ⑥ 手がかりの実装とともに生まれる別の価値（⊕マーク）や、起こってしまうかもしれない課題（⊖マーク）
- ⑦ 手がかりの実装を助ける技術や取り組みの事例
- ⑧ この手がかりとつながって価値を発揮したり、この手がかりがもたらす課題を回避する関連手がかり

001 空間を超えて感動をともにする



体験にともなう感動を遠くの人とも共有することで、他者との連帯が深まり、社会問題を解決したり、主体的に未来を作っていく力が生まれる。

オンライン環境が広がることで、時差のある海外の人や遠くに住んでいる人とコミュニケーションする機会が増える。

そのとき

同じ時間・同じ場所にいないと、その場の雰囲気まで共有しながら体験をともにすることが難しいので、リアルとオンラインで関係の深さに差が生まれてしまう。

そこで

デジタルを活用し、離れていても同じ体験をしているようにさまざまな感覚を再現したり、遠くからでもその場に強く働きかけられるようにする。空間を超えて他者とともに体験し、それにともなう感動まで共有できる。

さまざまな人が社会参加することで生まれる新しい価値や課題



- ・ 感動をともなう体験によって、コンテンツが一時的なものとして消費されるのではなく、提供者とのつながりが生まれる

- ・ 同じ空間にいなくても、セレンディピティ(思いがけない出会い)が生まれる



- ・ その場にいなくても同じ体験、同じ感動を味わえると、わざわざその場に行く、という体験全体が面倒になり、手軽さや効率が優先されるようになる

- ・ ネガティブ・ケイパビリティ(不確実で答えが出ないような状況に耐える力)がおとろえてしまう

関連する取り組み

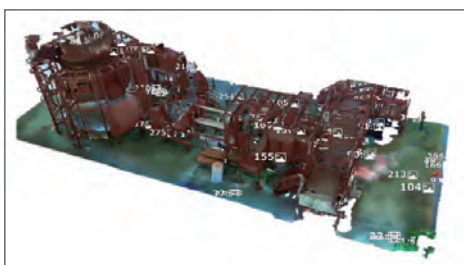
バーチャルスタジアム



通信が溶け込んだ未来のスポーツ観戦として、まるで試合中のグラウンドにいるような臨場感と、応援の熱量の共有ができるバーチャル・パブリックビューイングが実現された空間を構築した取り組み。

バーチャルスタジアム [📄](#)

現場拡張メタバース



詳しくは下記リンク先をご確認ください。

現場拡張メタバース [📄](#)

関連する手がかかり

006

分身で叶える

007

どこでもネイティブ
になれる

013

鳥の目を持つ

014

参加者の入り口を
広く用意する

自分の学びを見える化する



仕事において達成感や成長を感じることで、
自分の可能性に自信を持てる。

社会の変化や技術の進歩が速く、新しい仕事が次々に生まれ、
求められる経験やスキルがめまぐるしく変わっていく。

そのとき

自分の経験やスキルが追いつかなくなり、仕事の効率が下がってしまう。
必要なスキルを身につけたいと思っても、その学び方がわからない。

そこで

センサーを使った身体の動きやふるまいのセンシング、
AIとのコミュニケーションを通じて、個人の経験やスキルをデータ化する。
目標までの道のりや、自分でも気づいていない強み・弱みを見える化する。

さまざまな人が社会参加することで生まれる新しい価値や課題



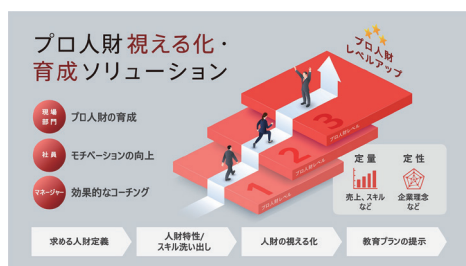
- ・身につけるべきスキルや伸ばすべきスキル、そのためにどのような経験が必要かが分かる
- ・自分に合った仕事の機会を得やすくなる



- ・経験やスキルのデータが重要視され、本人の意欲ややりたいことが考慮されなくなる
- ・多くの選択肢から仕事を選ぶのが難しい

関連する取り組み

プロ人財見える化・育成ソリューション



仕事に求められるスキルや特性と、現在のレベルとのギャップを見える化。それをもとに、取るべき資格や最適な教育プランをオススメし、スキルアップをサポートする仕組み。

プロ人財見える化・育成ソリューション

VistaFinder Mx



スマートグラスを使い、離れた場所からでも作業方法を教えられるシステム。経験豊富なプロフェッショナルが、現場で作業している初心者を遠くからサポートできる。また、スマートグラスをかけた人が見ているところや動きを分析すれば、これまで言葉で説明しにくかったプロフェッショナルの勘やコツなどをデータ化できる。

VistaFinder Mx

関連する手がかかり

003

健康管理を自然に
自分事化する

004

細部に宿る知を
見える化する

006

分身で叶える

008

過去を
手放してみる

010

AI パートナーとともに
こだわりをつくる



共有する健康データの内容を自分で選ぶことや、日常的にヘルスケアサービスを受けることを通して、健康管理が自然に自分事化される。

生活習慣病の増加や、医師不足によって医療サービスを受けづらくなることから、病気の治療よりも予防への関心が高まっている。

そのとき

日々の生活の中で健康を意識する機会が少なく、病気になるまで健康に向き合えない人も多い。

そこで

日常生活の中で自分の健康データが取得・解析・保存され、健康状態を簡単に把握できる。データを共有することで、自分に合ったヘルスケアが自然に提供されるようになる。

さまざまな人が社会参加することで生まれる新しい価値や課題



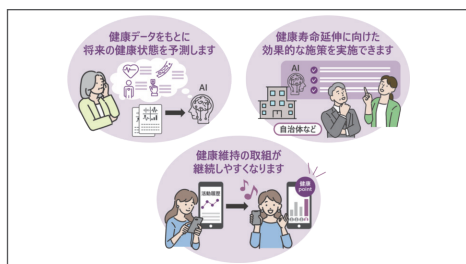
- どこにいても、自分に合ったヘルスケアサービスが受けられる
- 日常的な健康管理を通じて、地域の人々とのつながりが強まる
- 健康データを共有することで、ヘルスケアサービスの発展や医療費の抑制につながる



- 個人データのセキュリティ確保が、重要な課題となる
- 個人データを共有すると、常に監視されていると感じてしまう
- 自分の情報が安全に管理されているか不安を感じてしまう

関連する取り組み

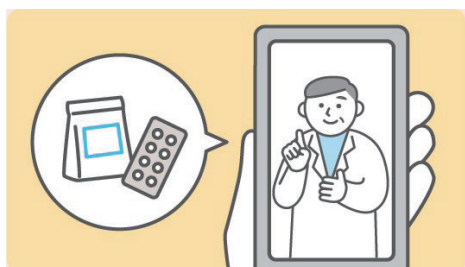
健康データの集約と活用



体重や血圧といった身体データ、食事などの生活データ、スマートフォンやスマートウォッチから得られる日々の活動データを集め、自治体や病院、企業が活用できるようにする仕組み。データをもとに将来の健康状態を予測したり、それぞれにあった健康づくりのアドバイスが受けられるようになる。

健康データの集約と活用

スマートフォン起点の健康管理



スマートフォンのアプリによって、毎日の歩数、消費カロリー、体重の変化などを記録し、医療サービスを受ける以前から、健康管理に気をつけることができる。

スマートフォン起点の健康管理

関連する手がかり

002

自分の学びを
見える化する

004

細部に宿る知を
見える化する

005

自分も地球もヒーリング

008

過去を
手放してみる



社会を維持するために、必要な知が受けつがれる。
失われかけた文化や伝統を受けつぐ人が増える。

人口が減ったり高齢化が進むと、働く人が足りなくなり、
少ない人数で多くの仕事をこなしたり、短い時間で作業することが必要になる。

そのとき

経験や技術を持つ人の技や知識が失われたり、
伝統芸能や芸術を受けつぐ人がいなくなる。

そこで

身体の動かし方やふるまいをセンサーで測ったり、
AIとやりとりすることを通じて、プロフェッショナルの技やコツをデータ化できる。
データを使って技能を再現したり、初心者が簡単に技を学べる教育プログラムをつくれる。

さまざまな人が社会参加することで生まれる新しい価値や課題



- 自分の経験や技術が、仕事に役立っている実感がわく
- どんな経験をして、どんな技術を身につければ良いかがわかる
- 自分に合った仕事を見つけやすくなる



- 経験を通して出会える知は学べない
- 時間をかけて修行していないので、技能に込められた文化や思想まで受けつぐことは難しい

関連する取り組み

FREEDI



物をつかむ指先の力加減や、作業中の音などを記録できるセンサーの付いたグローブ。工場のモノづくりの現場で、作業ミスを見つけたり、作業の自動記録をする用途に活躍。

FREEDI

農業 IoT



気温や湿度、日光、土の温度などのデータをセンサーで集め、インターネット上に保存して分析、作物がよく育つ環境条件を見つけられる仕組み。これまで農家の人の経験や勘に頼っていた、作物の上手な育て方を、データとして見える形にすることができる。

農業 IoT

関連する手がかり

002

自分の学びを
見える化する

003

健康管理を自然に
自分事化する

006

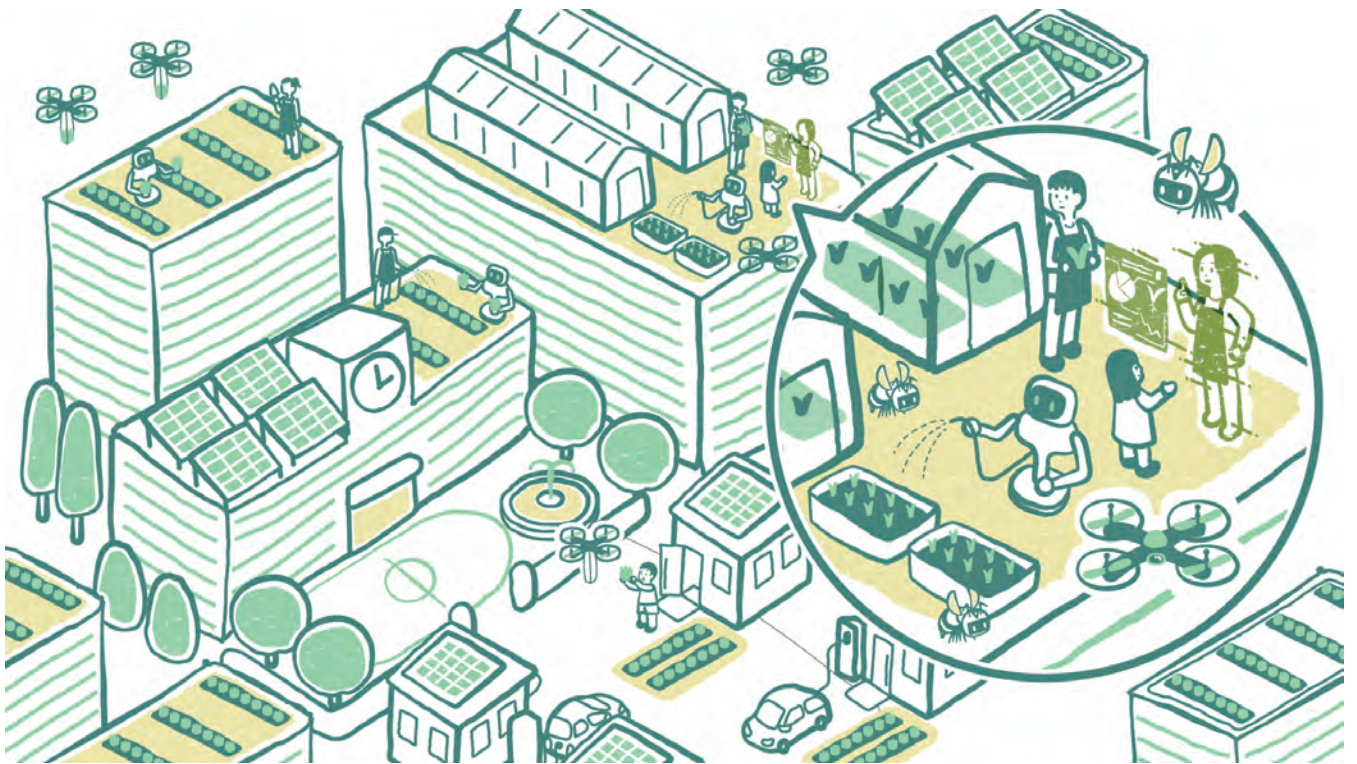
分身で叶える

008

過去を
手放してみる

010

AI パートナーとともに
こだわりをつくる



私たちにとって大切な食や健康を守る活動を通じて、
地域のみんなとの絆が深まったり、地球環境を守ることにつながる。

気候変動や、物の値上がり、輸送の問題が大きくなり、
健康的な食生活のために、欲しい食材を自分で育てるようになる。

そのとき

都会では農地が少ないので、自分に合った食材や、
食べたい食材を手に入れるためには、
他の地域や地球環境に負担をかけてしまう。

そこで

その地域の気候条件や、住民の健康データをもとに、
必要な食材やそこに適した育て方をアドバイスしてくれる都市農園で、
地域のみんなで野菜を育てる。

さまざまな人が社会参加することで生まれる新しい価値や課題



- ・ 農作業を通して心身がいやされ、心と身体の健康を高められる
- ・ 都市に土や緑を増やすことで、景色がよくなり、気温を下げる効果も期待できる
- ・ 地産地消によって、食材を運ぶときに出る温室効果ガスなどを減らせる



- ・ 地域の間での水資源の取り合い、ゴミの増加、都市に生息する動植物への影響など、新しい問題が起きるかもしれない

関連する取り組み

地域共創 Te to Te



5GやIoTというテクノロジーを使った農業のスマート化や、農業に取り組む人を育てることを通じて、地域を盛り上げる取り組み。スマートグラスというメガネ型の機器と、離れた場所からでも作業のやり方を教えられるシステムによって、初めての人でもベテラン農家の知識を学べる。

地域共創 Te to Te [📄](#)

Hi Miura



神奈川県三浦市で行った、地域の人と協力して街づくりを進める新しい取り組み。無人の販売所で野菜を買うときに、農家と消費者がメッセージをやりとりして野菜の値段を決める『あえて手間のかかる買い方』をすることで、人と人の新しい関係性や、便利さとは違う価値が生まれるきっかけとなる。

Hi Miura [📄](#)

関連する手がかかり

003

健康管理を自然に
自分事化する

006

分身で叶える

009

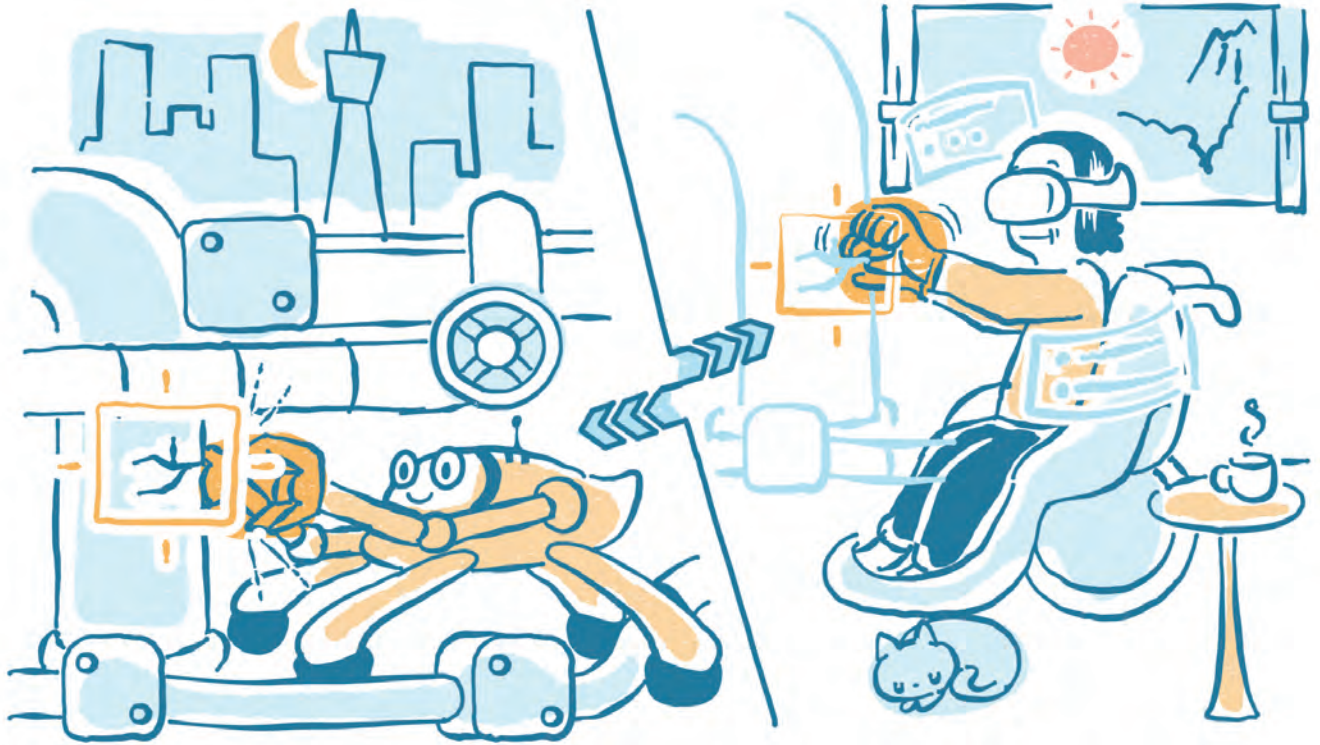
旅以上、定住未満で
暮らす

013

鳥の目を持つ

014

参加の入口を広く
用意する



仕事や遊びに参加しやすくなり、人とのつながりや社会の役に立つことを感じられる。
自分にもっと自信が持てたり、夢を叶えることもできる。

人口が減ると働く人の数も足りなくなるので、もっと多くの、
さまざまな人が社会で活躍することが求められる。

そのとき

年齢や障がいの有無、また住んでいる場所によって、
できる仕事や体験が限られたり、
その人にとってきびしい環境で働かなければならないことがある。

そこで

ロボットやアバターに”デジタルひょう依”して、
自分の分身として離れたところから動かすことができる。
身体に障がいがあったり、離れた場所に住んでいても、いろいろな形で社会に参加できる。

さまざまな人が社会参加することで生まれる新しい価値や課題



- いろいろな世代の人が、仕事や遊びを通じて交流できる
- 一人でいくつかのアバターを使うことで、仕事をより速く進めることができる
- 一人でいくつかの自分を使い分ける”分人”となり、さまざまな仕事に取り組める
- 何人かで同じロボットやアバターを動かすことによって、人から技術を学んだり、新しい可能性を広げられる



- 働く上でのルールを見直すことが必要になる
- 働く人のやりがいを、利用されてしまう危険もある

関連する取り組み

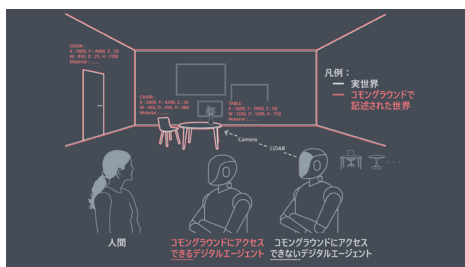
メタバース・Web3 サービスαU



「もう、ひとつの世界。」をコンセプトに展開されているメタバース・Web3サービス「αU」。バーチャル空間で音楽やアート、ショッピングを楽しむことができ、誰もがクリエイターになって表現できるなど自己表現の場・機会を提供する。

メタバース・Web3 サービスαU 

コモングラウンド



街の地図や情報と、さまざまなロボット、乗り物、センサーやインターネット上のデータをつなぎ、現実の世界とデジタルの世界で同時に情報をやりとりできる仕組み。人間、ロボット、アバター、建物、水道や線路といった暮らしを支える設備などが協調する社会の実現に役立つ。

コモングラウンド 

関連する手がかかり

001

空間を超えて
感動をとにもする

002

自分の学びを
見える化する

004

細部に宿る知を
見える化する

005

自分も地球もヒーリング

007

どこでもネイティブ
になれる

013

鳥の目を持つ

014

参加の入口を広く
用意する



世界中のいろいろな地域の人々と交流することで、
お互いの好みや価値観をありのままに受け入れてもらえる場所を増やせる。

世界中で、生活に便利な都市部に人口が集中する。

そのとき

都市部ではない地方では、
同じ地域にさまざまな価値観の人が集まらず、
住民同士のつながりが閉じたものになってしまう。

そこで

言葉だけでなく、その地域の法律やルール、
文化や習慣などの違いまで教えてくれる”ホンヤク”によって、
いろいろな地域の人々と交流しやすくする。

さまざまな人が社会参加することで生まれる新しい価値や課題



- 交流できる人や地域が増えることで、社会にさまざまな考えや価値観が生まれたり、自分の視野が広がる
- 特定の地域に人口がかたよらなくなり、地方の人材不足が解決する



- 異なる文化を簡単に翻訳できるようになると、自分で時間をかけて深く理解しようとする思いが薄れてしまうかもしれない

関連する手がかり

001

空間を超えて
感動をともにする

006

分身で叶える

008

過去を
手放してみる

009

旅以上、定住未満で
暮らす

過去を手放してみる



夢中になれる仕事に出会うことで、
長く働き続ける時代でも成長を感じながら主体的に生きていける。

プロフェッショナルの技やコツがデータ化され、
データを使って技能を再現したり、初心者でも簡単に技を学べるようになる。

そのとき

学ぶことにも効率性が求められたり、
人手が不足していてニーズの高い仕事につくことが優先されてしまうと、
個人の意欲から始まるチャレンジや、自ら考えて学ぶ機会が減ってしまう。

そこで

一人ひとりに付いたAIカウンセラーが、働き方や学び方についてアドバイスしてくれる。
その時、その人の経験やスキルだけでなく、「どんな仕事に夢中になれるか」まで考えて
仕事を提案してくれる。デジタルを活用して、思いもしなかった仕事やさまざまな働き方を
試すことで、夢中になれる仕事と出会える。

さまざまな人が社会参加することで生まれる新しい価値や課題



- ・ 自ら考えて働き方や学び方を決めていくことで、長く社会に貢献できる
- ・ やりがいを感じられると、仕事の成果も向上する
- ・ 社会にとって今すぐ必要ではなくても、個人の意欲から始まるさまざまな学びが集まれば、社会全体が強くなりやすくなる



- ・ 多くの人に平等に学ぶ機会を提供するには、お金や時間がかかる
- ・ 夢中になれることを見つけられないと、取り残されてしまう
- ・ 個人の夢中だけを追い求めると、社会全体としては立ち行かない

関連する取り組み

キャリア面談支援 AI



キャリア面談を受ける人の表情や身ぶり、話すときのトーンなどをもとに、AIがその人の性格を分析。その人にマッチした仕事の提案やアドバイスを受けられるようになる。

キャリア面談支援 AI [🔗](#)

トクイのカケハシ

AIチャットボットとの会話から、自分が持つスキルや得意なことが分かる。それをもとに、生きがいを持って活躍できる場や、セカンドキャリアに向けたチャレンジの場を作ることを目指す、実験的な取り組み。(現在は終了)

トクイのカケハシ [🔗](#)

関連する手がかかり

002

自分の学びを
見える化する

003

健康管理を自然に
自分事化する

004

細部に宿る知を
見える化する

006

分身で叶える

009

旅以上、定住未満で
暮らす

011

「好き」や「やる気」で
稼ぐ、学ぶ

012

その場に行くこと
によって活力を獲得する

旅以上、定住未満で暮らす



故郷のように過ごせる場所をいくつか持つことや、地方や自然の中での暮らしを通して、誰もが気兼ねなく、地域の発展にいつでも持続的に貢献できる。

「ハイブリッドワーク」や「ワーケーション」といった働き方や、いろいろな場所を移動しながら暮らす「アドレスホッピング」が、さらに普及していく。

そのとき

一時的な滞在では、自治体のサービスを十分に活用できず、
また地域活性化にもつながりにくい。
一方、移住するまでの大きな決断は難しい。

そこで

定住しない人に対しても、過去に滞在したことのある自治体同士が連携し、その人に合った公共サービスを提供する。サービスを受けた人が納めた税金は、滞在期間やサービスの内容に合わせて、それぞれの地域に公平に分配されるようにする。

さまざまな人が社会参加することで生まれる新しい価値や課題



- ・ 地域経済の持続的な活性化につながる
- ・ 人の動きや移動が活発になり、特定の地域に持続的に関わる人が増加する
- ・ その自治体と関わりを持つ「みなし住民」のデータによって、住民全体に対するサービスの質が向上する
- ・ 「みなし住民」のデータによって、それまで気づかなかった地域の価値や課題の発見につながる



- ・ 住民税などの税制度が複雑になる
- ・ 地域ごとに受けられるサービスが違くと、格差が生じる

関連する取り組み

関係人口の新たな入口



NFT (Non-Fungible Token: 非代替性トークン) を活用し、経済支援を行いながら、地域に関わる意欲のある「関係人口」のグループを発足、継続していくことで、地域を支援するプロジェクト。

関係人口の新たな入口 

定住にとらわれないライフスタイルを実践する若者たち



定住をしないライフスタイルは、それを実践する人と受け入れる地域に、どのような価値をもたらすのか。地域への移住や多拠点生活をする若者たちと、複数の居場所を持つためにはどんな仕組みが必要か、また課題は何かについて対話をする。

定住にとらわれないライフスタイルを実践する若者たち 

関連する手がかかり

003

健康管理を自然に
自分事化する

007

どこでもネイティブ
になれる

008

過去を
手放してみる

AI パートナーとともに こだわりをつくる



自分のこだわりを理解するAIとの対話によって、思考を整理できたり、
こだわりに沿いながら、思いもよらないアイデアが得られたりする。

さまざまな仕事や活動で、AIを活用することが当たり前になる。

そのとき

誰が利用しても、同じAIが作るものは似たようなものになってしまうので、
クリエイティブな仕事のように自分のこだわりを持って仕事をしている人は、
AIに仕事を任せるのは難しい。

そこで

自分のこだわりをよく理解したAIが、
そのこだわりに大量のデータをかけ合わせて、新しい発想を広げてくれる。
創造性とアウトプットの効率を両立した真のパートナーになってくれる。

さまざまな人が社会参加することで生まれる新しい価値や課題



- ・ AIが学んだ個人のこだわりに関するデータは、技能を伝えることなどにも応用できる



- ・ AIがこだわりを理解するまでは、AIが作るアウトプットのチェックや修正の指示などに、時間や手間がかかるかもしれない
- ・ AIによるアウトプットが、著作権や肖像権など、他人の権利を損なってしまうおそれがある
- ・ AIが学んだ個人のこだわりが、流出してしまうおそれがある

関連する取り組み

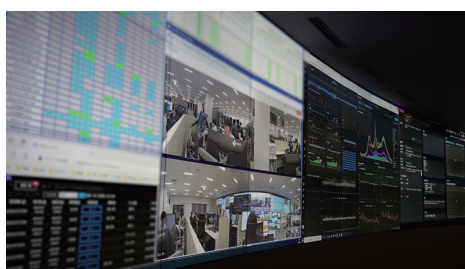
生成AIがもたらすクリエイティビティの変化



生成AIをうまく使いこなしていると言われる20代の若者は、その可能性をどう感じているのだろうか？生成AIの活用をリードしている職種で活躍している3人の若者と、「働きがい」や「人の持つ創造性」、その未来について考える。

生成AIがもたらすクリエイティビティの変化 [📄](#)

AIを活用した障害検知システム



通信ネットワークの運用においては、これまで熟練のオペレーターによる匠の技で通信設備の監視を行ってきたが、システムの自動化を進めつつ、過去のデータを学習したAIが小さな異常も検知できるようになっている。

AIを活用した障害検知システム [📄](#)

関連する手がかり

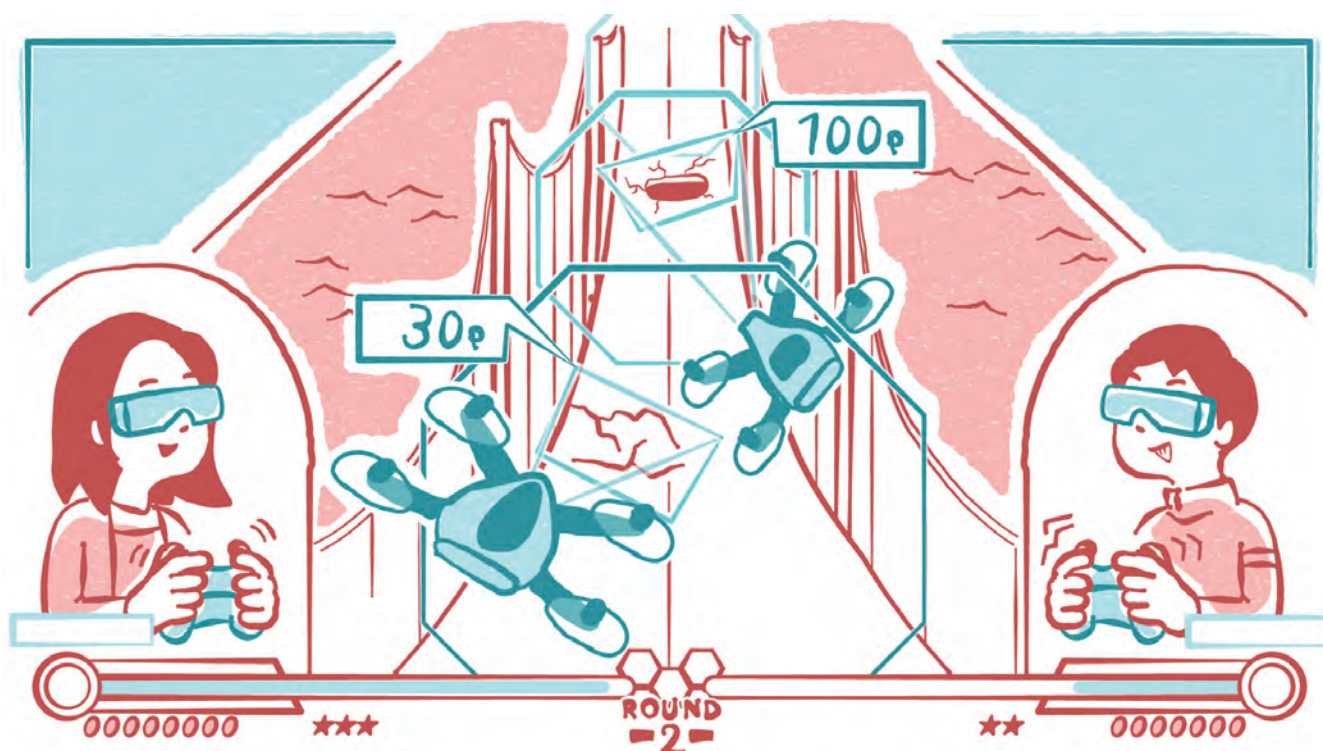
002

自分の学びを
見える化する

004

細部に宿る知を
見える化する

「好き」や「やる気」 で稼ぐ、学ぶ



働くことや学ぶことをはっきり意識しなくても、
自分の「好き」や「やる気」を活かした社会参加や社会貢献ができるようになる。

どんな仕事や学びを選ぶかが、一人ひとりの好みや価値観にゆだねられるようになるが、実際に仕事に就くときには、スキルや適性といった指標が基準になる。

そのとき

スキルや適性という観点だけでは、
働くことや学ぶことにやりがいを感じられないこともあり、
モチベーションを維持するのが難しい。

そこで

趣味や生活の中で、自分の「好き」や「やる気」を持てる行動を通して、
学びを深めたり報酬を得られるような仕組みを作る。

その場に行くことによって 活力を獲得する



オフィスに出社したり、対面で習い事に参加することで、活力やインスピレーションを得ることができると、組織が活性化し、優秀な人財が集まりやすくなる。

リモートワークや、アバターでの授業参加など、仕事や勉強をする時間や場所の制約がなくなると、「場所の柔軟さ」を重視して会社や学校を選ぶ人が増える。

そのとき

対面で仕事や勉強をする機会が減ると、コミュニケーション力が低下したり、エンゲージメント(会社や組織への一体感や愛着)が低下して孤立感が増したりする。

そこで

セレンディピティ(思いがけない出会い)のある環境や、特別な対価を得られる仕組みを用意して、その場に行くことを動機付ける。

さまざまな人が社会参加することで生まれる新しい価値や課題



- ・ 対面での仕事や授業が適度な緊張感を生み、生産性や仕事の質が向上する
- ・ 会社や組織に対するエンゲージメントが高くなる



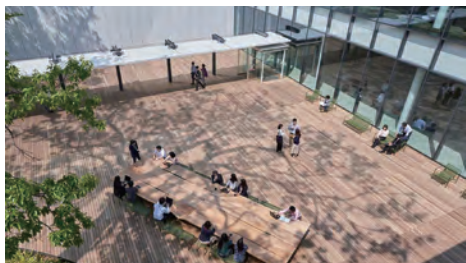
- ・ 仕事や勉強の内容によっては、集中力を維持できず、スピードが落ちるおそれがある
- ・ 人間関係や通勤通学のストレス、オフィス環境に問題がある場合など、その場に行くストレスが心身の負担になることもある

関連する取り組み

「創造を加速する」オフィス

「創造」をテーマに、みんなが出勤したくなるオフィスを企画した事例。さまざまな「創造」がある中で、例えばたくさんの方が並ぶブックエリアでは、その場に足を運ぶからこそ新しい本に出会えたり、自分の視点だけでは見つけられない本に出会えたりする工夫がされている。

協創の森



都心から離れた武蔵野の豊かな自然の中にある、日立製作所の研究開発拠点。「自然との共生」「新たな協創のカタチ」「創造力を高めるワークスタイル」をテーマに、世界中の人とオープンな協創ができる環境をめざしてデザインされた。

協創の森 [📍](#)

関連する手がかり

006

分身で叶える

008

過去を
手放してみる

さまざまな人が社会参加することで生まれる新しい価値や課題



- ・自分の行動が、遠く離れた場所や未来に与える影響を考えるきっかけとなり、責任感が生まれる



- ・考えることや目を向けるべきことが多くなり、息苦しさを感じてしまう

関連する取り組み

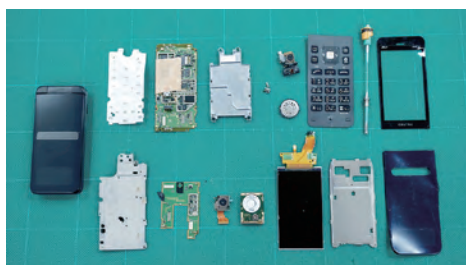
キャップノソノゴ



東京都国分寺市で行われた、市民参加型のプラスチック資源循環の実験。市民の方から使用済みのペットボトルキャップを集め、それを粉々に砕き、溶かしてボタンを成形するワークショップを開催した。資源循環のプロセスを体験することで、身近なものを「資源」として再認識してもらうきっかけづくりに挑戦した。

キャップノソノゴ 

携帯電話リサイクル



使用済みの携帯電話を回収し、端末の中にある資源を新たな姿に生まれ変わらせるためのリサイクルの取り組み。自分が使わなくなったものが、遠く離れた場所で新たな価値を持つものとして生まれ変わることで、価値の循環を感じられる。

携帯電話リサイクル 

関連する手がかり

001

空間を超えて
感動をともにする

005

自分も地球もヒーリング

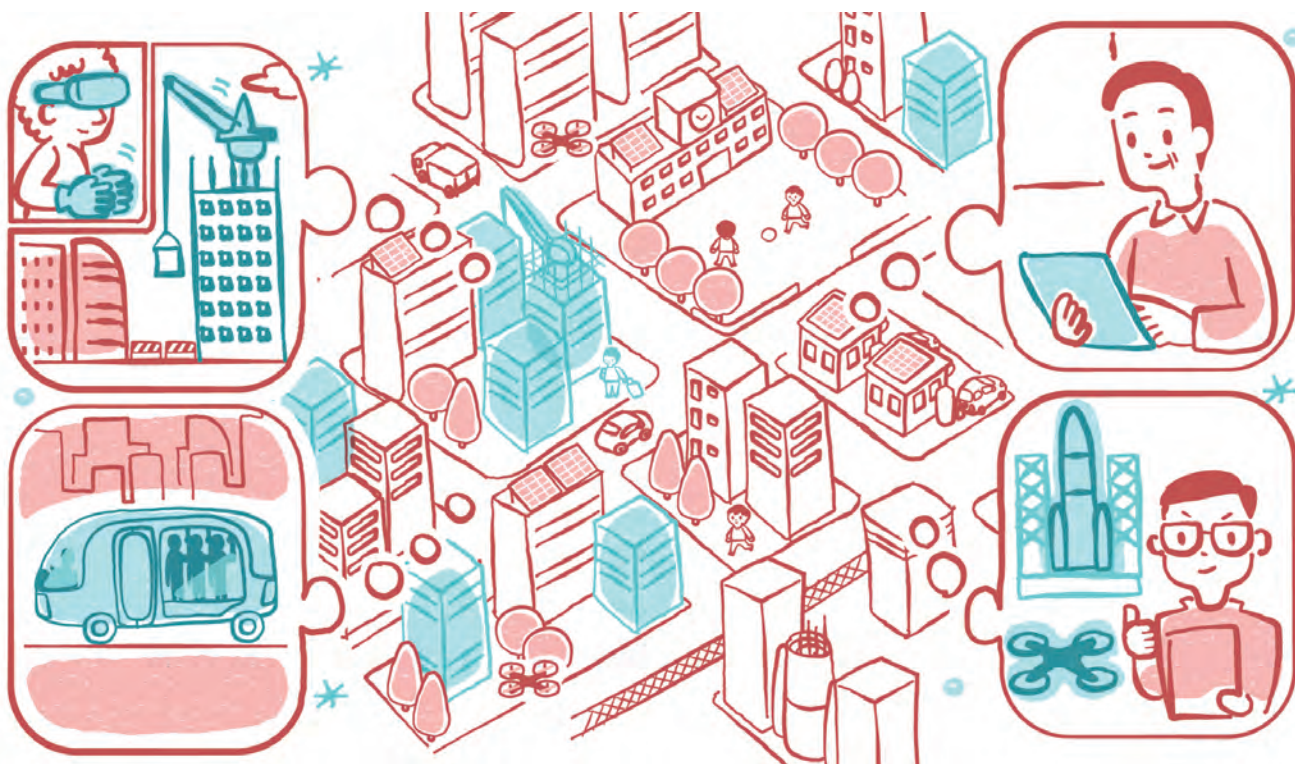
006

分身で叶える

014

参加の入口を広く
用意する

参加の入口を広く用意する



自分の小さな行動が社会や未来にどのような価値を生み出すかがわかると、より多くの人々がさまざまな形で社会に参加できる。

これまで見過ごされてきた、社会の中で長い時間をかけた価値の循環や、遠く離れた場所との価値の循環が、形として見えるようになる。

そのとき

その価値の循環に加わりたいと思っても、
その場所にいなければならなかったり、
年齢や資格などの条件があり、参加できる人が限られてしまう。

そこで

デジタルを活用して、それぞれに合ったやり方で、価値の循環に参加できるようにする。
価値をやり取りした記録を勝手には書き換えられないブロックチェーンの技術を使って、
それぞれがどのように社会に貢献したかをわかるようにする。

さまざまな人が社会参加することで生まれる新しい価値や課題



- ・ 自分の行動が、遠く離れた場所や未来に与える影響を考えるきっかけとなり、責任感が生まれる



- ・ 考えることや目を向けるべきことが多くなり、息苦しさを感じてしまう

関連する取り組み

カーボン・オフセット・チャージャー



専用のACアダプターを通して使った電力分の「J-クレジット」を簡単に購入できる。J-クレジットの購入代金は再エネ発電事業者に支払われるので、脱炭素に貢献する事業者を、個人が簡単に応援できる仕組み。

カーボン・オフセット・チャージャー 

携帯電話リサイクル



使用済みの携帯電話を回収し、端末の中にある資源を新たな姿に生まれ変わらせるためのリサイクルの取り組み。自分が使わなくなったものが、遠く離れた場所で新たな価値を持つものとして生まれ変わることで、価値の循環を感じられる。

携帯電話リサイクル 

関連する手がかり

001

空間を超えて
感動をともにする

005

自分も地球もヒーリング

006

分身で叶える

013

鳥の目を持つ

みんなで 未来の都市をつくる 手がかり

Ver 1.01

制作（カード・コンテンツ）

■ 株式会社日立製作所

研究開発グループ 未来社会プロジェクト

沖田 英樹

研究開発グループ Digital Innovation R&D デザインセンタ

小西 正太、福丸 諒、森 真柊

デジタルシステム&サービス統括本部 社会イノベーション事業統括本部

坂東 弘信

■ KDDI株式会社